

# 会 議 要 旨

会 議 名	平成30年度第2回 館山市地域公共交通会議
開 催 日	平成31年2月6日（水）午後3時～午後4時55分
開 催 場 所	館山市コミュニティセンター 2階集団指導室
出 席 者	[委 員]合計27名（欠席 4名）※別紙一覧表のとおり [館山市]合計7名（市長・総合政策部長・経済観光部長・教育部長・企画課長・同副課長・同係員） ※上記のほか、館山市地域公共交通網形成計画に係る調査業務を受託した、ランドブレイン株式会社の社員が2名出席
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	3名（定員10名）
議 事	<p><b>【議 事】</b></p> <p>（1）館山日東バス 千倉線の再編について（協議事項）</p> <p>（2）南房総市との連携（合同会議設置、合同計画策定等）について（協議事項）</p> <p>（3）館山市地域公共交通網形成計画策定に係る各種調査結果について（報告事項）</p> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者からの情報提供等</li> <li>・館山日東バス 豊房線のダイヤ改正について</li> <li>・春の高速ジェット船（東京～館山～伊豆大島間）季節運航について</li> </ul>
会 議 内 容	<p>◇開会</p> <p>◇館山市長あいさつ</p> <p>◇新規委員紹介</p> <p>人事異動により委嘱替えを行った委員の紹介を実施。</p> <p>◇議事</p> <p>（1）館山日東バス 千倉線の再編について（協議事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から「資料1-1、1-2、1-3」を用い、以下の内容等について説明。内容やダイヤ改正実施等について承認された。</li> <li>①効率化や利便性向上を図るため、館山駅～千倉・平館を走る「千倉線」と、千倉駅～安房白浜を結ぶ「白浜千倉線」を統合し、館山駅～千倉駅～安房白浜を直通させること。</li> <li>②ルート（館山市内）及び運賃に変更は無いこと。</li> <li>③本数は5往復のままだが、ダイヤを変更すること。（朝8時前に館山駅に到着する便や18時以降に館山駅を出発する便の設置、午後の運行間隔が空くこと）</li> <li>④ダイヤ変更によるメリット・デメリットの説明。（メリット：通勤通学に使える、デメリット：午後の運行間隔が空く⇒館山駅～九重間は鴨川線も利用可能）</li> </ul>

⑤試算によれば、経常損失額＝補助金額は減る見込みであること。

**【補足説明：館山日東バス 平野副会長】**

(経緯・内容の補足等)

- ・館山日東バスが運行している一般路線バスについては、かねてより収支が厳しく、補助金を受けていても採算割れしている状況。
- ・少子高齢化による人口減少や燃料費高騰により経営は深刻な状況で、平成29年度決算では赤字に転落した。
- ・今年度に入り、更に状況が悪化。白浜千倉線、白浜亀田線の赤字額が会社にとって大きな負担となり、会社経営が成り立たなくなるため、平成30年7月31日付けで、上記2路線が運行されている南房総市・鴨川市に廃止の申し入れを行ったところ。
- ・両市と協議を続けてきた結果、白浜千倉線については南房総市において継続が決まり、白浜亀田線については（両市に）継続意向が無かったことから、廃止することとなった。
- ・白浜千倉線と館山千倉線を統合し、効率化を図るとともに、朝の通勤通学の時間帯に館山駅着の便を、18時台に館山駅を出発する便を設定し、3月のJRダイヤ改正にあわせ、時刻変更を実施する予定。
- ・白浜亀田線廃止に伴い、白浜⇄千倉間については、千倉駅で内房線の安房鴨川行き/安房鴨川からの列車に接続させることとした。
- ・南千倉から千倉駅間については、商業施設のある海岸沿いにルート変更し、買物利便性を向上させる。
- ・白浜、千倉地区住民にとっては、安房地域医療センター等、館山市内へ乗換なしでアクセスできるようになる。

**【質疑・意見等】**

(轟座長)

- ・館山市区間においては、ダイヤ以外の変更は無いと認識しているが、長大路線になり遅延の可能性があるため、運行開始後も利用動向等、状況を常にチェックし、必要であれば改善するなどの策を講じていただきたい。
- ・周知をしっかりと行っていただきたい。直通化等により、利用しやすくなったという点をアピールしていただきたい。

(事務局)

- ・本路線が走っている館野・九重地区に対しては、新ダイヤや利便性向上等をアピールするチラシを作成し、全戸配布する予定である。

**(2) 南房総市との連携（合同会議設置、合同計画策定等）について（協議事項）**

- ・事務局から「資料2-1、2-2、2-3」を用い、以下の内容等について説明。方向性について承認されたが、具体的な方法論については、今後南房総市及び館山市においてしっかり検討されたいとの意見が出された。
- ①南房総市から、地域住民にとって利便性の高い公共交通ネットワーク構築を今までよりも効率的に検討していくため、地域公共交通会議の合同化や、合同での計画策定について検討していきたい旨の申し入れがなされ、館山市としてもこれに同意し、その旨を回答したこと。

- ②具体的な手法については案・たたき台の段階であるが、2市で現在開催している地域公共交通会議のほか、合同の会議を設置し、2市にまたがる案件は合同会議で審議していくことや、合同会議の委員は2市の会議委員から選出する予定であること。
- ③具体的にはまだ詰まっていないが、合同計画の内容については、2市にまたがる広域的な案件を盛り込むか、2市合同で路線再編に関する計画（再編実施計画）策定を検討していること。
- ④より有利な財源を確保するため、定住自立圏構想（総務省が所管する制度で、地方圏でも安心して生活を営むことができるよう、中心市（館山市が中心市に該当）と周辺の市町村が役割分担を行い、圏域全体で必要な生活機能等を確保することを推進する制度：本制度を活用する市町村には、財源措置や国の補助制度採択に関する優遇措置などがある）を活用して事業に取り組んでいくことも検討している。
- ⑤早ければ平成31年度に合同会議を設置し、2020年度から合同計画の策定に着手したいと考えている。

**【補足説明：南房総市 高梨委員】**

- ・南房総市から公共交通会議合同設置、計画の合同化の申し入れをしたところ。
- ・平成27年に南房総市地域公共交通網形成計画を策定し、その後再編実施計画について認定を受けるべく国に申請したところ、「生活圈を共にする館山市を計画区域に入れ、面的な再編計画とすべき」という指導があった。
- ・面的な再編を進めるためには、館山市で策定する地域公共交通網形成計画と、南房総市で更新予定の地域公共交通網形成計画を一緒にしたものを作らなければ進まないことから、館山市と一体になった計画策定の申し入れを行った。
- ・平成30年10月に申し入れを行ったところ、館山市から「定住自立圏構想の位置づけも踏まえ、一緒にやりましょう」という回答を得た。

**【質疑・意見等】**

（成田委員）

- ・（合同化の）必要性は理解する。
- ・国が策定している「地域公共交通会議に関する国土交通省としての考え方」というガイドラインが昨年末に一部改正があったところ、あらかじめ会議における議決方法を定めておくことに変更はなく、合同会議を設置する前に議決方法について協議調整をする必要があると思われる。2市の会議の中から委員を選定するとのことだが、議決方法の内容、仮に多数決が良いという話になると、2市の人数割も議論となる。慎重にご検討願いたい。
- ・それぞれの市の公共交通会議を残したまま、2市にまたがる案件を合同会議で審議するという話について、合同会議で決まった内容がそれぞれの市の計画と整合性があれば良いのだが、若干でも内容が違う場合、どちらかの市が否決した場合など、3つの公共交通会議がある中でどのように進めていくか、新たに合同会議の設置要綱を作るのか、それぞれの市の設置要綱において、「合同会議で決定した事項は、両市の会議で議決されたとみなす」とするのか、方法は様々考えられるが、両市にまたがるものとそれぞれの市の計画の調整をいかに行うか、国や県にも意見を求めながら検討を進めていただきたい。

- ・県の生活交通維持確保3ヵ年計画を、県バス対策地域協議会で策定している。県における計画との調整も考慮していただきたい。

(轟座長)

- ・利害対立する場面の調整方法や役割分担についてはしっかり検討いただきたい。
- ・広域の方を先に策定した方が良いのではないと思うが、そのあたりもしっかり検討していただきたい。

(渡辺委員)

- ・バス路線の経路変更やバス停位置の変更については、どんな小さなことでも構わないので、事前に警察と協議願いたい。
- ・経路やバス停位置の変更にあっては、安全上の問題から、警察での検討や現場の実査が必要な場合もある。
- ・検討をスムーズに行うため、引き続き事前の協議・情報提供等についてご配慮いただきたい。

### (3) 館山市地域公共交通網形成計画策定に係る各種調査結果について（報告事項）

- ・事務局から、「資料3-1から3-5」に従い、調査結果の概要及び現時点で考えられる課題について説明を行った。

#### 【質疑・意見等】

(太田委員)

- ・観光に力を入れている中、二次交通についてどのように考えているのか聞きたい。現状では、どこに行くにしても一度駅に出て乗り換えなければならない。

(事務局)

- ・観光に関しては、計画にしっかり位置づけていく。宿泊施設の送迎は人手不足で厳しい、またチェックアウト後に観光したいがどこにも行けないという話を良く聞く。そうした点を解決していくことは重要だと考えている。

(鈴木正一委員)

- ・現状見えてきた課題について、これからどうするかという点を考えてほしい。地域ごとの施策等についても、現在提供されているサービスに照らし、どのようにしたらニーズに合うかなどを地域全体で考えていく必要がある。

(成田委員)

- ・資料3-4において、課題や今後の方向性がまとまりつつあるが、アンケートは今の時点でのデータとなる。一方、上位・関連計画では、都市計画マスタープランや人口ビジョン等が示されているが、これらは将来のデータであり、今後、将来予測等を行いながら課題に結び付けていく予定はあるのか。

- ・課題3「過度な自家用車利用の抑制・・・」について、自家用車の抑制と公共交通の利用がリンクしてこない面もあるので、自家用車と調和した形での公共交通利用促進を求めた方が、自家用車利用率が高い地域ではより公共交通に優しい地域が作られていくと考えるので、表現を検討願いたい。

- ・課題4「高齢者の足の確保」について、課題5の「広域的ネットワーク」とどのように絡んでくるのか。館山市単体の話なのか、近隣も関係してくるのか教えてほしい。

(事務局)

- ・将来予測については、計画期間を5年に設定する予定なので、少なくとも5年

先は見据えていく必要があると考えている。

- ・広域連携については、現在のところはっきりしていないところがあるが、ある地区で実施した公共交通地区別座談会においては、南房総市と連携して取り組むべきではという意見が出たので、2市連携を引き続き検討していくつもりである。

#### ◇その他

委員から以下のとおり情報提供があった。

##### ○今井委員（ジェイアールバス関東館山支店）

- ・洲の崎線（館山駅～宮城～西岬方面）の「ショッピングライナー」（おどや館山海岸店・“渚の駅”たてやま経由便）については、午前便については、平均3名程度ご利用がある。天候に左右されることもあるが、最近では“渚の駅”たてやま利用者も増えてきている。
- ・昨年5月から試験運行を始めた、館山駅22時発の休暇村館山ゆき「フライデーバス」（毎週金曜日のみ運行）については、残念ながら平均して1名程度の利用しかなく、続けていくのが難しいかなと感じている。
- ・3月16日に、鉄道の時刻変更にあわせてダイヤ改正を実施する。南房州本線（館山駅～安房神戸～安房白浜）については、本数はそのままだが、館山駅における亀田病院ゆき（鴨川線）への接続や、安房白浜において千倉方面からの接続をとるなど、時刻の修正を行う予定である。洲の崎線については、8時25分館山駅着の便が遅延するため、8時30分の高速バスに間に合うようダイヤを5分早めるほか、伊戸漁港9時17分発を東京駅直通（高速バス車両使用）から館山駅止まりの一般路線バスに切り替える。（当該便は通院等で利用する住民が多く、高速バス車両だとステップが高い上、乗り降りに時間がかかり遅延するため）

##### ○平野副会長（館山日東バス）

- ・3月16日、鉄道の時刻変更にあわせ、豊房線のダイヤ改正を実施する。便数に変更は無いが、館山駅での列車接続や、安房白浜での白浜千倉線や南房州本線と接続させる。詳細は追ってホームページ等に掲載する。
- ・白浜亀田線の路線廃止については、様々なご意見をいただいております、房日新聞の社説においてもご意見を頂戴した。「普段は乗らないが、いざバスがなくなると不安になる」「行政と協議しての結果なのだろう」という内容であったが、利用者には直前にならないと結果を説明できないことや、経緯の説明が十分にできていなかったところもあり、この会議の場を借りて、先ほどそのあたりを説明させていただいた。
- ・他の路線もまだ厳しい。普段自家用車に乗っている人にとって、路線バスは利便性・自由度の面では勝てないが、たまには路線バスに乗っていただくよう、また住民に路線バスのことを話していただくよう、各地域の代表の方にはお願いしたい。
- ・路線を統合する館山千倉白浜線については、白浜や千倉の住民が館山に直通できるようになるだけでなく、館山から白間津の花畑へ観光に行くなど、小旅行で使ってもらえればありがたい。

○事務局から（豊房線ダイヤ改正について）

- ・豊房線については、白浜亀田線の廃止に伴い、車両の運用が変わる等の理由でダイヤ改正を実施する。
- ・便数はそのままで、特に安房白浜から館山駅への便において、JR内房線木更津方面に接続できるようなダイヤとした。
- ・本路線の時刻変更は、平成17年4月1日以降、14年ぶりとなる。豊房神余地区において時刻等を記載したチラシを全戸配布するなど、周知に努める。

○石井経済観光部長から（東京～館山～伊豆大島間高速ジェット船について）

- ・2月2日から3月24日までの51日間、高速ジェット船の季節運航が始まった。東京と伊豆大島を結ぶ高速ジェット船が、季節限定で館山に寄港するもの。
- ・これまで、館山から伊豆大島に観光客を運ぶことをやってきた。今年度も実施しており、大島での観光が付いたツアーのほか、船だけであれば往復2,980円の切符を販売している。是非ご利用いただきたい。
- ・加えて、東京と館山の間の利用客を増やそうと取り組んでいる。一昨年から東海汽船と連携し、東京発館山ゆきの往復が5,000円になる切符を販売しているが、今期から4,800円に値下げし、館山発の往復割引切符も販売を開始した。所要時間75分で渋滞知らずだが、ダイヤの関係上、東京での宿泊が必要となる。
- ・大島ゆきとあわせ、是非ご利用いただきたい。

○事務局から（東虹苑での取組について）

- ・豊房神余地区の山あいにある東虹苑（200戸ほどで、当初は別荘地として開発された）において、高齢化等により移動手段が無く困っているとの声を受け、小学校区単位で開催する予定だった公共交通地区別座談会を東虹苑で開催したほか、地区内全戸を対象として、移動手段に関するアンケートを実施すべく、準備を進めている。
- ・取組の具体化には至っていないが、このような動きがあることをご報告させていただく。

【事務局から】

- ・今年度は、この会議が最終となる。
- ・来年度会議は4月以降となる。日時が決まり次第ご案内させていただく。

◇閉会